

業務の新聞

第8号 平成29年 10月10日

10月ダイ改交渉開催！ 冬の輸送商品の説明？！

9月21日、「平成29年10月改正等について」の“説明”を受けました。

常磐線特急列車において、「車掌の一人乗務を行う」と経営側はしていましたが、直前に「二人乗務」に再変更して、U-Tラインの増発、利便性向上を掲げるダイヤ改正を“説明”として各労働組合に提示しました。

私たちは、職場の仲間たちと申2号を作成し支社経営側に申し入れを行い、10月5日に分会からも出席頂き団体交渉を行いました。以下、私たちの主な質問・主張・意見です。

一人乗務に対する考え方は？「着席サービス」の浸透は？二人乗務になった経緯は？将来的には、一人乗務としたいのか？何をもって業務量の増減というのか？車掌業務を行うのに10両一人でよいのか？他の着席サービスの実績はどうか？多目的室や車イス対応などの具体的な課題をクリアしてから次のステップではなのが？職場の声を聴き、具体的な課題をクリアして“提案”すべきだ。不安を抱えたままで業務に携わるわけにはいかない。

これに対し支社経営側は、

「業務量に見合った配置」「他の着席サービスについては把握していない」「輸送体系の変化などを加味し二人乗務と判断した」「今後については業務量に見合った要員配置を行う」「貴重な現場の声を伺った…」

「便利な・利用しやすいJR」であるべきだと私たちは考えます。サービスの提供はもとより安全安定輸送の提供は私たちの責務です。

“業務量に見合った要員を配置”については多くの仲間たちが指摘しています。会社にだけ都合の良いものにならないよう、引き続き検討していきます。

10月5日、平成29年度冬の輸送商品の説明をうけました。「インバウンド需要」「大人の休日俱楽部」「送客」などの言葉が列車設定理由として付されていましたが、残念ながら「インバウンド需要」「大人の休日俱楽部」について具体的な数字が提示されることはありませんでした。

支社経営側は、何をもって列車の設定を行っているのでしょうか？当日の説明では、「各要請に応えて」「利用が望める」と言わっていました。“大丈夫ですか？”“本当に大丈夫ですか？”“利用するお客様のニーズに本当に合っていますか？”

具体的な数字を抜きにして、ウエからの要請が何よりも優先的であり、疑う余地など何もないという支社の姿勢は改めるべきではないでしょうか？

JR東日本に何が求められているのか？考えられる、考えることが必要です。否定的は「上意下達」を乗り越えるには現場・職場がチカラを蓄え発揮しなければなりません。

思いつくままに

10月ダイ改交渉や冬の輸送商品説明に出席して感じることは、施策を企画・実施すること以前の“何を”“何のために”？ということを抜きには論じられないということです。

何のために一人乗務にするのか、何のためにこの列車が必要なのか…。その答えが「ウエから言われたから」では残念としか言いようがありません。

私たちも、シッカリと現実をから会社と職場を見ていきましょう。